

ジオパークを教材とした大学教育の実践-鳥取環境大学プロジェクト研究を事例に- A practical use of geoparks as university educational materials

新名 阿津子^{1*}
NIINA, Atsuko^{1*}

¹ 鳥取環境大学地域イノベーション研究センター

¹Regional Innovation Research Center, Tottori University of Environmental Studies

鳥取環境大学では学部の枠を超えた初学者向けの演習科目「プロジェクト研究」を開講している。本科目は教員がテーマを設定し、環境学部と経営学部の学生が共に調査研究を行うものである。本学では2012年度後期から「山陰海岸ジオパーク」シリーズを開講した。「山陰海岸ジオパーク」シリーズではジオパークを研究対象とし、フィールドワークを通じて地域調査の手法を習得する事を目的としている。これまで一年生対象の「バーチャルジオツアーの開発」、「吉岡温泉の土地利用調査」、「ジオ商品・サービス開発」、二年生対象の「湖山池ジオツアーの開発と実施」、「吉岡温泉における地域変容の要因解明」を行った。その研究成果は学内での研究発表に加え、開発したジオツアーの実施、研究報告会の開催等を通じて地域へとフィードバックしている。そして、これら一連の研究活動から、学生にとってジオパークがソーシャルラーニングの場としての性格を持つ事が判明した。

そこで、本報告ではジオパークを活用した大学教育の実践について、鳥取環境大学プロジェクト研究を事例に検討し、大学教育でジオパークを対象とする際の課題や大学と地域の関係について議論する。

キーワード: 大学教育, 地域調査, ソーシャルラーニング, 山陰海岸ジオパーク, 鳥取環境大学

Keywords: university education, regional survey, social learning, San'in Kaigan Geopark, Tottori University of Environmental Studies